



平成26年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年10月31日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ツカモトコーポレーション

コード番号 8025 URL <http://www.tsukamoto.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 阿久津 和行

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役本部担当

(氏名) 小林 史郎

TEL 03-3279-1330

四半期報告書提出予定日 平成25年11月8日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第2四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第2四半期	13,994	△15.3	175	△77.6	154	△80.2	364	△22.6
25年3月期第2四半期	16,518	△2.3	785	△15.6	778	△17.8	470	△45.9

(注) 包括利益 26年3月期第2四半期 498百万円 (48.5%) 25年3月期第2四半期 335百万円 (△64.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第2四半期	9.14	—
25年3月期第2四半期	11.86	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第2四半期	28,833	9,388	32.6
25年3月期	34,833	14,186	25.8

(参考) 自己資本 26年3月期第2四半期 9,388百万円 25年3月期 8,983百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	—	—	3.00	3.00
26年3月期	—	—	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	3.00	3.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	26,500	△19.9	450	△64.4	350	△70.9	500	△21.2	12.54

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 有
新規 ― 社 （社名） 、 除外 1 社 （社名） 株式会社アディスマューズ

（注）詳細は、添付資料4ページ「2.(1)当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動」をご覧ください。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 ： 有

（注）詳細は、添付資料4ページ「2.(2)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 ： 無
② ①以外の会計方針の変更 ： 無
③ 会計上の見積りの変更 ： 無
④ 修正再表示 ： 無

- (4) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

26年3月期2Q	40,697,476 株	25年3月期	40,697,476 株
----------	--------------	--------	--------------

- ② 期末自己株式数

26年3月期2Q	828,075 株	25年3月期	1,018,372 株
----------	-----------	--------	-------------

- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

26年3月期2Q	39,872,768 株	25年3月期2Q	39,682,910 株
----------	--------------	----------	--------------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1.(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報.....	2
(1) 経営成績に関する説明.....	2
(2) 財政状態に関する説明.....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明.....	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項.....	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動.....	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用.....	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示.....	4
3. 四半期連結財務諸表.....	5
(1) 四半期連結貸借対照表.....	5
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書.....	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書.....	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項.....	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(セグメント情報等)	11
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記.....	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、輸出及び個人消費が回復基調を示し、流通業界においても店頭販売において高額品の販売が改善傾向を示すなど、景気回復の動きが見られる状況となってきました。一方で、流通業界を含む内需関連の業界においては、円安の進行により収益に影響するリスクが高まるなど、構造調整の重圧が高まってきております。

このような環境下にあって当社グループは、現行の中期経営計画期間3年目の最終年度に当たり、着実な収益体制の確立と財務体質の改善を図り、グループの経営基盤の確立と安定配当の継続を基本方針として、今年度をスタートしました。

なお、第1四半期連結累計期間において、当社が保有する陳列用器具の賃貸業及び建物の賃貸業を行っていた株式会社アディスマ्यूズの株式を譲渡したことにより、株式会社アディスマ्यूズは連結の範囲から除外されました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における連結業績は、売上高は139億9千4百万円（前年同期比15.3%減）、営業利益は1億7千5百万円（前年同期比77.6%減）、経常利益は1億5千4百万円（前年同期比80.2%減）、四半期純利益は3億6千4百万円（前年同期比22.6%減）となりました。

セグメントの状況は以下の通りです。

〔和装事業〕

ツカモト株式会社及び市田株式会社における和装事業につきましては、新規催事の獲得に積極的に取り組み、また、催物流の効率化と流通在庫管理の改革にも着手しており、売上高は前年を若干下回りましたが、損益は改善しました。

以上の結果、当事業分野の売上高は40億8千8百万円（前年同期比1.8%減）、セグメント損失（営業損失）は36万円（前年同期はセグメント損失6千9百万円）となりました。

〔洋装事業〕

ツカモトアパレル株式会社におけるメンズ事業につきましては、春夏物の受注減少の影響により売上高は前年を下回り、営業損失の計上となりましたが、秋冬物については順調な立ち上がりを見せております。

ツカモトユーエス株式会社におけるユニフォーム事業及びOEM・婦人テキスタイル事業につきましては、ユニフォーム事業は受注状況が改善しましたが、利益率の低下により増収減益となりました。OEM・婦人テキスタイル事業は、売上高は前年を下回り、円安の影響により利益率が低下し減収減益となりました。ツカモトユーエス株式会社としましては増収減益となりました。

以上の結果、当事業分野の売上高は47億6千万円（前年同期比1.6%減）、セグメント利益（営業利益）は、1億3千2百万円（前年同期セグメント利益3億7千7百万円）となりました。

〔ホームファニッシング事業〕

市田株式会社におけるホームファニッシング事業につきましては、既存店の店頭売上が苦戦しましたが、第2四半期後半にアウトレット直営店の新規出店があり、売上高は若干の増加となりました。損益はロイヤリティ負担額の増加とアウトレット直営店の出店に伴う経費増により減益となりました。

以上の結果、当事業分野の売上高は21億9百万円（前年同期比1.6%増）、セグメント損失（営業損失）は1千4百万円（前年同期はセグメント利益1億7千3百万円）となりました。

〔健康・生活事業〕

ツカモトエイム株式会社における健康・生活事業につきましては、新規商材の販売が好調に推移し、増収増益となり、損益は黒字に回復しました。

以上の結果、当事業分野の売上高は26億1千8百万円（前年同期比18.1%増）、セグメント利益（営業利益）は1千5百万円（前年同期はセグメント損失9千6百万円）となりました。

〔建物の賃貸業〕

株式会社ツカモトコーポレーションにおける建物の賃貸業につきましては、新規テナント誘致の遅れにより減収減益となりました。

なお、当社が保有する陳列用器具の賃貸業及び建物の賃貸業を行っていた株式会社アディスマーズの株式を譲渡したことにより、同社が第1四半期連結会計期間の期首より連結から除外されましたが、同社保有の賃貸物件は当社グループ内賃貸であったことにより、影響は軽微であります。

以上の結果、当事業分野の売上高は4億4千7百万円（前年同期比1.4%減）、セグメント利益（営業利益）は、1億4千9百万円（前年同期比35.3%減）となりました。

〔その他事業〕

倉庫業は新規取引先の開拓が奏功し、増収増益となりました。また、前年に研修センター運営事業から撤退した影響により、売上高は前年を若干下回りましたが、営業利益は増加しております。

以上の結果、当事業分野の売上高は2億6千7百万円（前年同期比1.1%減）、セグメント利益（営業利益）は7百万円（前年同期はセグメント損失1千7百万円）となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ、子会社株式の譲渡による連結範囲の変更等により、現金及び預金が8億6千9百万円減少、受取手形及び売掛金が10億2千4百万円減少、たな卸資産が1億4千9百万円増加、その他の未収入金が8億1千1百万円増加したこと等により流動資産が9億4百万円の減少となりました。また、建物が13億6千7百万円、土地が30億8千3百万円、投資有価証券が2億6千2百万円、その他の長期性預金が4億円減少したこと等により固定資産が50億9千5百万円減少し、資産合計は60億円減少の288億3千3百万円となりました。

また負債の部では子会社株式の譲渡による連結範囲の変更等により、支払手形及び買掛金が4億4千2百万円、短期借入金が8億9千9百万円、未払金が1億5千8百万円、未払法人税等が1億5千7百万円減少したこと等により流動負債が18億3千6百万円の減少となりました。また、長期借入金の6億6千7百万円の増加等により固定負債が6億3千4百万円増加し、負債合計は前連結会計年度末に比べ12億2百万円減少し、194億4千4百万円となりました。

純資産は子会社株式の譲渡による連結範囲の変更等により、株主資本合計が2億7千万円増加し、少数株主持分が52億2百万円減少したこと等により、純資産合計は前連結会計年度末に比べ47億9千7百万円減少し、93億8千8百万円となりました。

キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における連結ベースの現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は64億1千万円で前連結会計年度末より9億1千9百万円減少、また、前年同期と比べ15億8千5百万円の減少となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結会計期間における営業活動による資金の減少は、2億6千1百万円（前年同期は4億7百万円の増加）となり、これは主に有価証券売却益、固定資産売却益、売上債権及びたな卸資産の増加額、及び仕入債務の減少額が税金等調整前当期純利益の計上を上回ったこと等によるものであります。この結果、前年同期と比べて6億6千8百万円の減少となりました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結会計期間における投資活動による資金の減少は、3億7千万円（前年同期は8億2千2百万円の増加）となり、これは主に有形及び無形固定資産の取得による支出及び連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出等によるものであります。この結果、前年同期と比べて11億9千2百万円の減少となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結会計期間における財務活動による資金の減少は、2億8千8百万円（前年同期は1億2千6百万円の増加）となり、これは主に長短借入金の返済による支出及び配当金の支払額が、長短借入れによる収入を上回ったこと等によるものであります。この結果、前年同期と比べて4億1千5百万円の減少となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

国内経済の状況は、輸出及び個人消費が回復基調を示し、流通業界においても店頭販売において高額品の販売が改善傾向を示すなど、景気回復の動きが見られる状況となってきました。一方で、流通業界を含む内需関連の業界においては、円安の進行がコスト高を招き、構造調整の圧力が高まるなど、決して楽観を許さない状況が続くものと思われまます。

このような状況下にあつて当社グループは、現行の中期経営計画期間3年目の最終年度に当たり、各事業部門における既存事業による収益の安定化と成長戦略を進め、着実な収益体制の確立と財務体質の改善を図り、グループ経営基盤の確立と安定配当の継続を基本方針として対処してまいります。

通期連結業績予想としましては、現段階で平成25年6月10日発表の「業績予想の修正に関するお知らせ」から修正は行っておりません。ただし、業績予想の見直しが必要と判断した場合には、速やかに開示致します。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当社は、平成25年5月27日開催の取締役会において、当社の連結子会社である株式会社アディスマューズの全株式を同社に譲渡することを決議し、同日付で同社との間で株式譲渡契約を締結いたしました。本契約に基づき、当社は、平成25年6月10日に、当社が保有する株式会社アディスマューズの全株式を同社へ譲渡いたしました。これにより同社を第1四半期連結会計期間の期首より連結の範囲から除外しております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用の計算

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,329	6,460
受取手形及び売掛金	5,935	4,911
有価証券	101	101
たな卸資産	2,866	3,016
繰延税金資産	26	—
その他	448	1,311
貸倒引当金	△35	△32
流動資産合計	16,672	15,768
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,619	2,241
土地	9,751	6,667
その他（純額）	305	265
有形固定資産合計	13,676	9,173
無形固定資産		
その他	127	102
無形固定資産合計	127	102
投資その他の資産		
投資有価証券	3,819	3,556
繰延税金資産	19	—
その他	750	454
貸倒引当金	△233	△223
投資その他の資産合計	4,356	3,788
固定資産合計	18,160	13,064
資産合計	34,833	28,833

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,980	5,538
短期借入金	6,617	5,717
未払消費税等	74	44
未払法人税等	240	83
繰延税金負債	16	16
返品調整引当金	63	38
その他	917	634
流動負債合計	13,908	12,072
固定負債		
長期借入金	3,750	4,417
繰延税金負債	1,929	2,064
再評価に係る繰延税金負債	14	14
退職給付引当金	366	325
役員退職慰労引当金	88	41
資産除去債務	20	20
その他	568	487
固定負債合計	6,738	7,372
負債合計	20,647	19,444
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,829	2,829
資本剰余金	709	709
利益剰余金	4,882	5,127
自己株式	△124	△99
株主資本合計	8,297	8,567
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	671	802
繰延ヘッジ損益	7	7
土地再評価差額金	7	7
為替換算調整勘定	0	3
その他の包括利益累計額合計	686	820
少数株主持分	5,202	—
純資産合計	14,186	9,388
負債純資産合計	34,833	28,833

(2) 【四半期連結損益及び包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
売上高	16,518	13,994
売上原価	11,408	10,177
売上総利益	5,110	3,817
返品調整引当金繰入額	55	38
返品調整引当金戻入額	83	63
繰延リース利益繰入額	—	2
繰延リース利益戻入額	0	0
差引売上総利益	5,138	3,840
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費	212	240
旅費及び交通費	305	285
荷造運搬費	388	322
貸倒引当金繰入額	37	4
給料	1,610	1,252
賞与	200	139
退職給付引当金繰入額	105	108
役員退職慰労引当金繰入額	5	0
福利厚生費	357	288
業務委託費	222	254
減価償却費	83	50
賃借料	124	122
その他	699	593
販売費及び一般管理費合計	4,353	3,664
営業利益	785	175
営業外収益		
受取利息	19	14
受取配当金	33	41
保険配当金	12	5
受取保険金	—	0
為替差益	1	—
その他	37	18
営業外収益合計	104	80
営業外費用		
支払利息	91	81
手形売却損	9	4
為替差損	—	6
その他	10	8
営業外費用合計	111	102
経常利益	778	154

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
特別利益		
固定資産売却益	100	151
関係会社株式売却益	—	151
特別利益合計	100	303
税金等調整前四半期純利益	879	457
法人税、住民税及び事業税	292	37
法人税等調整額	—	55
法人税等合計	292	93
少数株主損益調整前四半期純利益	586	364
少数株主利益	116	—
四半期純利益	470	364
少数株主利益	116	—
少数株主損益調整前四半期純利益	586	364
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△239	131
繰延ヘッジ損益	△12	0
為替換算調整勘定	1	3
その他の包括利益合計	△250	134
四半期包括利益	335	498
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	230	498
少数株主に係る四半期包括利益	105	—

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	879	457
減価償却費	162	102
有形及び無形固定資産除却損	7	0
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	36	△3
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	8	24
その他の引当金の増減額 (△は減少)	△50	△25
受取利息及び受取配当金	△53	△56
支払利息	91	81
有価証券売却損益 (△は益)	△4	△154
為替差損益 (△は益)	△1	6
固定資産売却損益 (△は益)	△100	△151
売上債権の増減額 (△は増加)	269	△83
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△152	△150
仕入債務の増減額 (△は減少)	△415	△94
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△24	△1
その他	△18	△259
小計	633	△305
利息及び配当金の受取額	61	57
利息の支払額	△95	△82
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△192	69
営業活動によるキャッシュ・フロー	407	△261
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	—	△50
有形及び無形固定資産の取得による支出	△80	△176
有形及び無形固定資産の売却による収入	494	—
投資有価証券の取得による支出	△0	△0
投資有価証券の売却による収入	412	6
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	—	△97
貸付けによる支出	△1	—
貸付金の回収による収入	1	—
その他の支出	△7	△52
その他の収入	4	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	822	△370

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	1,944	1,469
短期借入金の返済による支出	△1,871	△1,833
長期借入れによる収入	800	930
長期借入金の返済による支出	△700	△700
リース債務の返済による支出	△36	△35
自己株式の取得による支出	△0	△0
自己株式の処分による収入	—	0
配当金の支払額	△1	△118
少数株主への配当金の支払額	△8	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	126	△288
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1	1
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	1,355	△919
現金及び現金同等物の期首残高	6,640	7,329
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,995	6,410

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント							その他 (注)	合 計
	和装事業	洋装事業	ホームファインシング 事業	健康・生活 事業	陳列用器具の 賃貸業	建物の 賃貸業	計		
売上高									
外部顧客に対する 売上高	4,163	4,838	2,066	2,218	2,796	269	16,353	165	16,518
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	0	0	9	0	23	184	218	105	324
計	4,163	4,839	2,076	2,218	2,820	453	16,571	270	16,842
セグメント利益 又はセグメント 損失(△)	△ 69	377	173	△ 96	280	230	896	△ 17	878

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、倉庫業、研修センター運営事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益及び包括利益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	896
「その他」の区分の利益	△ 17
セグメント間取引消去	2
全社費用(注)	△ 96
四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益	785

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間（自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント						その他 (注)	合 計
	和装事業	洋装事業	ホームファニシング 事業	健康・生活 事業	建物の 賃貸業	計		
売上高								
外部顧客に対する 売上高	4,087	4,760	2,098	2,617	259	13,823	170	13,994
セグメント間の内部 売上高又は振替高	0	0	11	0	187	200	96	296
計	4,088	4,760	2,109	2,618	447	14,023	267	14,291
セグメント利益又は セグメント損失(△)	△ 0	132	△ 14	15	149	282	7	289

（注）「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、倉庫業等を含んでおります。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

第1四半期連結会計期間において、「陳列用器具の賃貸」及び「建物の賃貸」のセグメントに属する株式会社アディスミューズの株式を譲渡し、連結の範囲から除外しております。これにより、前連結会計年度末における「建物の賃貸」のセグメント資産のうち、1,826百万円がなくなりました。また、「陳列用器具の賃貸」のセグメント資産はなくなりました。

3. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益及び包括利益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：百万円）

利益	金額
報告セグメント計	282
「その他」の区分の利益	7
セグメント間取引消去	2
全社費用（注）	△ 116
四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益	175

（注）全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

4. 報告セグメントの変更等に関する事項

平成25年6月10日付で当社の特定子会社である株式会社アディスミューズの全株式を譲渡したため、第1四半期連結会計期間の期首より連結の範囲から除外しております。これにより当社グループは「陳列用器具の賃貸」より撤退いたしました。

5. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

（5）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。